

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ここから塚たんぽぽ村
(ユニット名)	2階あかね
所在地 (県・市町村名)	大阪府堺市北区中村町198番地の1
記入者名 (管理者)	岸本 恵美子 (ケアマネジャー)
記入日	平成21年9月12日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットごとに理念を見やすい位置に掲示している。	理念の実践に向けての取り組み、日々の業務に当たっている
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議及び家族会を利用して当施設の理念を理解していただけるよう取り組んでいる	○ 運営推進会議及び家族会を利用して当施設の理念を理解していただけるようこれからももっと取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩中、顔見知りになったご近所の方からお声をかけていただいている。	○ こちらからの挨拶をもっと積極的にしていきたいが回りに住居が少ない
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事担当者が、いろいろ計画して地域の方々にも参加していただけるよう取り組んでいる	○ 9月15日敬老会を開催する。ボランティアの参加で利用者に楽しんでいただけるように計画している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、実施には至っていない。	○	これからの課題と考えている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勤務してすぐに、利用者の全体像を知る為に、フェイスシート・担当者会議を開催して重要な介護目標の検討をする	○	外部評価の検討を今回始めて取り組んでいる
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今後、家族等が参加して、意見を介護向上に努める	○	今後の課題と考えている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ、実施には至っていない。	○	市町村と話し合う機会をつくりサービスの向上に取り組んでいきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホームの入居者において、独居老人も居られるので、権利擁護に関する制度の理解と活用の勉強会を開催したい	○	勉強会を開催して、職員と話し合う機会をつくっていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するパンフレット等をいつでも見て学べるよう用意している。緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書に、該当者のご家族の同意を得た文書を残している。		外泊後の身体チェックも可能な限り行っている。お試し利用時には自宅での様子を聞き取り、身体確認も入浴時等に行っている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネが行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	下足箱上に意見箱を設置しているが、今のところその利用はない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	身体状況に変化があれば、主治医と連絡をとりながら家族に報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	下足箱上に意見箱を設置もしているが、職員に直接相談して頂ける様に配慮している	○ 意見等にて全職員が共有できる分については、引継ぎして共有している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを開催している	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の退職や欠勤については、直ぐに対応している。	利用者のADL低下による介護の増加についても、職員の勤務を増やしたりして、他の利用者に迷惑がかからないように配慮している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に不安が募らないように考えている		職員の離職・移動等で、利用者が不安に至らないように配慮していきたい。常に職員全員がいつものように介護できるようにしている
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの樹種的な講習の取り組みについて、事前に連絡を受けシフトに配慮したり、勤務交代を相談している。会社からの研修にも取り組んでいる	○	
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の北支所管内のケアマネ連絡会や、グループホーム勉強会に参加を推進している	○	今後も積極的に参加していきたいがシフト調整で無理なときもある
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場からの声を運営者は汲み取ろうとしている雰囲気は感じるが、管理者が多忙なため細かな相談に負担があるのではと思う	○	慰労会を実施時、管理者が率先して、ご馳走を手作りしたりして、労をねぎらってくれた
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	忙しい勤務中も相談ごとを聞いてくれるが、多忙なため悪い気がする	○	シフトに入らず、自由に動き回れる時間の確保に努めて欲しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者がその任務を行っている。	○ 管理者だけではなく職員一人ひとりが利用者様と話す機会をできるかぎりもち信頼関係つくっていききたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者がその任務を行っている。	○ 管理者だけではなく職員一人ひとりが利用者様と話す機会をできるかぎりもち信頼関係つくっていききたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者がその任務を行っている。	事前の生活歴当の収集に努めたい。入居後になるとご家族と話し合う機会や聞き取るタイミングが無くなることが多い。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所のシステムを利用する場合もある。	共同生活に対応できるのか、また、入居希望者が気に入ってくださるのか野お互いの確認のため、体験入所から始めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	必ず本人の身になって、一緒におこなうように努力し、利用者から何か学び取る姿勢で接している	1体1になれる入浴時等に、コミュニケーションを十分取るよう努力している。ゆっくり優しい声かけで接するように努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時、最近の利用者の方の様子をお知らせしている。		次回ご家族の来訪時まで、必要に応じて電話で連絡をし、本人を支えていくよう協力してもらっている。介護相談の担当者会議を必要時開催している
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	フェイスシートを作成して、これまでの生い立ちを把握してこれからも家族との良い関係を続けて頂ける様に配慮している		両者の思いを確認して、これからも介護協力を得られ本人が安心して、また、家族も安心して生活を継続して頂ける様に支援していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人、親類等の訪問時間も特に夜遅くならなければお越し頂いている。		孤独感で寂しい心が募らないように努めていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レグ等みんなで楽しめるように配慮して、目配り、気配りをし、関わり合いを持つように努めている		みんなで楽しめるレグを考えたり、ドライブ・イベントに全員で参加できるように計画している
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の生活に関してもう一步踏み込んで取組まないといけない。現在は実施していない	○	退所された後の生活はどのようにされているのか、個人情報に関することで難しいが、相談等があれば取り組みを考えたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見の言える人、言えない人の思いや意向を把握するように努める	○ 利用者一人ひとりの意向をできる限り聞き検討して、家族と確認して介護している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるとご家族の来訪も減少するので、入居時にいろいろな情報の収集に努めている。入居後も家族と介護相談で確認している	○ 職員全員が把握出来るようフェイスシートを作成している
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りノート、入居者ノート、ケース記録等で総合的に把握して、日々の生活の目標も設定している	介護者一人ひとりが総合的に把握できるように担当者介護も開催して、連絡・申し送りをしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネの新規のため、利用者の担当を決め担当者介護を開催した	○ 担当者会議で、介護の日々の目標も設定して生きがいのある日々を過して頂ける様に検討している。今後担当者会議は、更新・区分変更時・特別な介護変更時に開催する
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護担当者介護の必要性が生じた時は、敏速に家族に連絡を取り、担当者介護を至急開催している	日々の介護の変更は申し送りで確認している。介護目標も変更必要時に検討している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアマネが新たなサービス計画を作成するにいたって、担当者会議開催・申し送りにて確認している		申し送りノート、入居者ノート等を用意して、各職員情報の共有に努めている。今後も継続していく。家族にも必要時は連絡している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ADLの低下、入院の必要性が生じた時は、敏速に対応し書面に経過を記載している		今後も家族との連絡等を継続していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア等に申し込んで、ボランティア・大学生等の参加で行事を開催している	○	外出時、買い物時のボランティアの来訪や多種の催し事の利用を今後もボランティア利用を期待したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回の北支所館内のケアマネ連絡会や、グループホーム勉強会に参加し、他の事業者とつながりを持つ。	○	新規利用者の在宅のケアマネと連絡を取り合っ て、入居の必要性・在宅での継続の必要性も健闘 して、利用者本位の意向を大切にしている
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、実施には至っていない。	○	必要な利用者の入居が無いので、今後は必要に応じて検討していきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回か、月2回の主治医の往診がある。	○	
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	幻覚・幻想のきつい利用者の対応を実施していた	○	
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が2人居て平日はほぼ勤務しているので相談しやすい。		今後もNSと健康維持を図っていく
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の対応を図っているが、退去になるケースもある		入居者の入院時、病院関係者との連絡を密にし、退院後の入居者の不安や和らげ、家族と連絡を取り合っ、退院後の介護担当者会議も開催していきたい
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	精神疾患が強いケースはできるだけ介護体制性を強化して努めている		他の利用者に不安が広がらないように、介護職員全員で対応してきた
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族との連絡を図り、入院時もGHで対応できることは協力している	○	入居者の高齢化に伴い、重度や終末期の検討の必要性が生じた時は、敏速に対応していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族の最も心にかけていることなので、ご本人、職員、ご家族共に心身の変化に注意している。		必要性が生じた時は、NS・ケアマネが必要な書類を作成して、連絡を取るようになっている
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 ※ 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は、1人1人の個浴である。言葉使いは尊厳を持っておこなっている		各入居者の人権を大切にし、生きがいのある生活を送っていただけるよう支援している
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本位の介護をおこなっている、入浴日に気が進まないときは無理強いはしない、レクも自由参加である		自分の意志や意見の言えない入居者を対応を図っている、必要時には家族に連絡している
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で日々過して頂ける様に努力している、無理強いはしないが、閉じこもり、歩行不安等につながらないように声かけをしている		自己主張の強い入居者ばかりの意見が通っていないか、注意しながら全体のバランスを考えていくことも大切だと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度、希望者は訪問理美容を利用している。		本人希望での利用は、家族と相談して対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に職員が準備、調理、片付けをしているのが現状である。が手伝って頂ける様に配慮している		各入居者の持っている力を引き出し、能力に応じて力を発揮できる場の提供に努めたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	在宅時はお酒やたばこを飲んでいた入居者も、入所後は特に希望されてはいないが、希望されれば、ある程度の制限をつけて飲めるよう支援する予定。		健康管理上に制限はある程度守るが、ストレスにならないように配慮している
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の時間等を排尿・排便チェックの用紙に可能な限り記録し、パターンをつかむよう努めている。		決まった時間に声かけはするが、本人の意思を尊重して、排泄介助している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合により実施している場合が多いが入浴は午前にして、昼からレク等を楽しめるようにしている		入浴時の浴槽内の湯は、1回お一人入浴ごとに入れ替えている。気分が乗らない日はしいて入浴をしない日もある
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜勤者は各居室を訪室し、本日夜勤であるので何かあったら伝えて欲しいよう毎日話している。		できるだけ、熟睡して頂ける様に、夜中は見守りをしている、朝に全更衣になるときもある
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事を増やして、役割を作っているような配慮をしても、ADLの低下で継続できなくなってくる		何かすることはないかといってくる利用者には、できる事を探して協力してもらっているがなかなか時間がかかってできなくなっている


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭ではあるが、数人の入居者はお金を自己管理している。		自己管理に管理できている利用者もいるが、どこかにいってしまったという利用者もいるが、家族と話し合ってトラブルにならないように配慮している
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出とまでは行かないが、当グループホームの駐車場での外気浴は行っている。	○	外出の機会をもう少し増やしていきたい。周りに人家・商店が少ないので、車での外出もしている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足的な遠出もしたが継続的におこなえてない	○	ご家族の理解と協力を得て、計画的に外出できるようにしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを購入してもらい。ご家族や親戚に出している方もいる。		たんぽぽ通信も発行している
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室に訪問中は、ゆったりと過ごしてもらえている。		居室内に椅子等を持っていきゆっくりくつろいで面談して頂いている
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どうしても必要な入居者には、ご家族に説明、同意の上、安全確保を優先している。		身体拘束に関する説明書に、該当者のご家族の同意を得た文書を残している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には施錠している。		安全対策が必要なとき、又本人が出たいときはその都度対応している
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内で過したり、フロアで過したり自由に過して意頂いている。夜間2時間ごとの巡視をしている。	○	ただ、閉じこもり・寝たっきりにならないように声かけして、昼間は起きて、他の利用者と交流して頂ける様に図っている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪切り、はさみ等、入居者の方が利用される時は貸し出し、使用後は必ず返却してもらっている。		安全に利用できるように、介護者が見守っている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットにて事故を未然に防ぐように図っている	○	今一度の周知徹底を行い。事故が発生した場合、何が悪かったのかの検証も行き、事故報告書（ヒヤリハット）提出のみに終わらないように検討している
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行っていない。日頃の介護実習もおこなっていききたい	○	心構えはできていても、実際起こったときに対応できる訓練も必要である、避難訓練等は定期的の実施していく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今後夜勤一人体制になるので、地域の人々の協力を得られるよう働きかけていかなければならない。セコムに緊急連絡はつく		避難訓練等は定期的の実施していく、年2回

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族来訪時、居室に食物を置いて帰るときがある。誤嚥や賞味期限切れの心配もあるので、置くのであれば一声かけてもらうよう説明している。		リスクに対する説明をしたことなど、記録を残すように又職員が周知できるようにしている。家族も必要に応じて部屋の確認をしてくれる
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノート等を使用し、情報共有に努めている。		夜勤帯まで引きずらず、日勤帯での受診を心がけている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	NSと連絡を取り合い、服薬確認も周知している		目的、副作用、用法、用量の記録した書類ケース記録に綴っている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の記録や排便記録の活用も合わせてしている。		排便が3日間無ければ、服薬や及び看護師に報告し、浣腸処置に結びつけるようにしている。NSに報告して対応する
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や夕食後は行っているが、毎食後できるだけ本人の意思で対応できるように声を掛けている		義歯を自己にて洗浄できない入居者には、職員が変わって洗浄している。口腔家も見守り確認するようにしている
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録している。		嚥下能力には問題ないが、水分摂取量が少ない方にはお茶ゼリー等、型を変えての対応も必要と考える。入浴後はボカリを摂取していただく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	パンフレットの用意はある。消毒・マスク・手洗い・うがいは介護者が個人で徹底した対応を図っている		全職員の今以上の周知徹底。繰り返しの研修も図って生きたい。家族が伝染症状が出たときは自宅待機を図る体制である
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	当グループホームで調理する食材はその日のうちに使い切り、残っても持ち越さないようにしている。2時間以内に摂取する。		火を通して摂取できるように配慮している。水洗いも数回おこなっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇等を設置して、植物を植えて森林浴的な憩いの場を作っていくようにしている		夏の水遣り、植物の植え替えをおこなっている。1Fには中庭にて楽しめるようにしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に手作りのカレンダーや紙で作った季節の花を飾っている。行事の写真等も貼っている		安全面に配慮しつつ、もう少し家庭的な雰囲気（例：のれん、すだれ）を演出していきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、一人になれるような空間はない。居室に戻らないと、一人になれる。	○	個室対応できている。トイレも一人対応で、入浴も一人対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を居室内に持ち込まれている入居者もいる。		荷物の多い部屋もあるが、家族と整理整頓に努めている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節を自己管理できる入居者には、リモコンを渡している。		1Fの居室の窓は全開放して、空気の入替えをおこなっている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、廊下、浴室、トイレに手すりがある。		段差が無い、バリアフリー対策は行っている
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室やトイレには、扉に大きな文字を貼り、分かりやすくしている。各居室には表札をつけている。		月・日・曜日がわかるように大きな文字で毎日張り替えている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テーブルセットを配置し、屋外での外気浴に使用している。		季節の植物を楽しんで頂ける様に花壇も作った。1Fの中庭には自由に行けるようにしている

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

企画し、実行しても継続できていない事がないように検討していきたい。誕生日会の開催は開所からずっと継続しているが楽しみ方も工夫したい。職員に各項目事の担当を決め、3ヶ月のローテーションで担当を変更し、いろいろ変わった取り組みを継続できるように検討している。特にレクは今までしなかった内容を企画したり、ボランティアの申し込みや、大泉公園のボランティアの協力を得て、公園の花壇を楽しんだりして、もっと画期的な、生活を楽しめるような事を企画している。又、職員同士のコミュニケーションもはかれるように、館長がいろいろ企画してくれ楽しんで、職員のストレスをできる限り解消して、職員の努力で利用者に喜んで頂ける様に日々考えています